

農樂里

norari

やまがたの農山漁村づくり情報マガジン

2026年夏号

Vol.60
Free

テーマ

棚田と地域



やっぱりつや姫ね

「つや姫」は山形県が十年の歳月をかけて開発した自慢のお米です。
際立つ「白さ」「つや」「甘み」が特長です。
全国の皆様、是非お召し上がりください。
また、贈り物にもご利用ください。
今年も「つや姫」をどうぞよろしくお願いいたします。



山形「つや姫」「雪若丸」ブランド戦略推進本部 本部長

山形県知事 吉村美栄子

INDEX

テーマ

棚田と地域

未来のために棚田を守りぬく

大網の棚田 鶴岡市 4

棚田に笑顔を灯す

高橋の棚田 尾花沢市 6

棚田で紡ぐ地域の未来

中山の棚田 白鷹町 8

みんなで進める災害復旧

原田地区 舟形町 10

地域でつないだ水と農地

北楯大堰 庄内町 12

水土里ウォーク

諏訪堰 長井市 14

やまがたの食

ダチョウ 朝日町 16

読者プレゼント 19



表紙

「風情ある棚田」(撮影場所: 朝日町)

第29回「やまがた農村フォトコンテスト」

学生の部 特選

安達 花歩 さん

農楽里
norari

元気な農山漁村をつくっていきたい。農山漁村の自然や景観の保全活動に関わりたい。

農楽里(のらり)は、農山漁村づくりに関心のある方、参加してみたい方、すでに参加している方を対象に、県内各地の地域情報を発信し、新たなコミュニケーションの場づくりを提供する手づくりの情報誌です。

norariは、山形県ホームページからもご覧いただけます。(右記コードからアクセスできます。)



未来のために

棚田を守りぬく

おおあみ
～鶴岡市大網の棚田～

棚田とは？

棚田とは、山の斜面や谷あい階段状に築かれた水田のことである。平地が少ない中山間地域において、人々の暮らしや食を支え続けてきた、地域にとって欠かせない農地だ。

棚田は、食料生産の場であると同時に雨水を蓄えて洪水を防ぐなど、国土を守る役割も持っている。さらに、美しい景観の形成や地域固有の風土・文化の継承にも貢献するなど、多面的機能を有している。

しかし、その維持管理には多くの手間がかかり、高齢化や担い手不足の進行により、継続が課題となっている。その一方で、県内各地では、棚田を守り、活かす様々な取り組みが広がっている。

自然と歴史に育まれた棚田景観

鶴岡市にある大網の棚田は、月山山麓の中山間地域に位置し、約140枚の水田から構成されている。標高約300mの緩やかな斜面に広がり、冬には積雪が3mを超える豪雪地帯でもある。

また、出羽三山への参詣道である六十里越街道が棚田を縦断しており、古くから人々の往来とともに農業が営まれてきた。





今回お話を伺った
大網の棚田保全会代表
わたなべ まさし
渡部 政治 さん



六十里越街道沿いをいくと、出迎えてくれるのぼり旗
5色展開で、季節ごとに入れ替えられる

🌾棚田を守るための工夫と実践

現在、この大網地域でも作業条件の厳しさや担い手の減少により、従来どおり全ての農地を水田として維持することが難しくなっている。こうした課題に対応するため、大網の棚田では、農地の活用方法を次のように工夫している。

● 水田として利用しなくなった
農地への行者ニンニク植栽

↓ 遊休農地の解消

● 畦畔へのワラビやミョウガの植栽 ↓ 畦畔の草刈り作業の低減

また、棚田を継続的に活用していくための取り組みとして、オリジナル米袋の作成やのぼり旗の設置などを行い、棚田景観の魅力発信も行っている。

🌾景観と暮らしを守る、地域の思い

大網の棚田保全会では、担い手が減少する中でも話し合いを重ねてきた。棚田保全に対する思いについて代表の渡部氏はこう語る。

「単に棚田を守るという感覚はあまりないんです。ここは自分たちがずっと暮らし続けてきた場所だから、景観を悪くしたくない。この土地での暮らしをこれからも守って行きたい。そんな思いで続いています。」



高橋の棚田(尾花沢市)

高橋の棚田(尾花沢市)

なか がり

中刈村づくり実行委員会

高橋集落協定

「棚田ガーデンライト」

 棚田と地域コミュニティ

「高橋の棚田」は、やまがたの棚田20選に選ばれており、宮城県との県境にある翁山の豊かな湧水と土壌が、ブランド棚田米「雪きらり」を育んでいる。「高橋の棚田」という財産を次世代へと引き継ぐには、地域コミュニティの力が不可欠だ。

「楽しく続ける」をモットーに、毎年様々なイベントを開催し地域のつながりを維持してきた中刈地域を紹介したい。

「楽しく続ける」地域のイベント

尾花沢市高橋に位置する中刈地域は、人口約60人の小さな地域ながら、ほぼ全員が参加する「中刈村づくり実行委員会」と、「高橋集落協定」を中心に、多彩なイベントが開催されている。取組みのきっかけは、行事が少なく地域の人たちの活気が薄れ、「このままでは地域が暗くなる」という危機感だった。「どうせ暮らすなら楽しい場所を自分たちでつくろう」という思いから、平成24年に県支援のもとワークショップを実施した。その中で掲げられた「人の意見を絶対に否定しない」という方針は、現在も活動の基盤となっている。

ワークシヨップを契機に、地域の意識も変化した。たどり着いた答えは、「棚田を守る」ことが、地域を守ること。そのために、「大きな成功」ではなく、「楽しく続けること」が重要と考え、景観づくりや若者が考えたイベントなどを楽しみながら続けている。





中刈流地域イベント継続の「6つの秘訣」

①人の意見を否定しない

地域で最も大切にしている姿勢。まずはやってみるという考え方を徹底している。

②女性同士の仲が良い

さまざまな場面で女性の関わりが大きく、地域内では「女性陣の仲が良いほど活動が続く」という実感がある。

③若者・女性の意見を尊重する

若者や女性の視点が入ることで、これまでになかったアイデアや工夫が生まれる。

④みんなの自主性に任せる

自分の考えで関わることで、当事者意識が高まり、関わり続ける可能性が高くなる。

⑤みんなで取り組む

全員が関わることで負担を分散し、「自分たちの活動」という意識も強まる。

⑥何度も地域内に宣伝する

「知らない」「関係ない」と地域の人たちが感じて、地域とのつながりが薄れないように、こまめに宣伝する。



おきなきょうだい®

※地域の小学生が考えた

中刈の公式キャラクター。



中刈地域のイベントギャラリー



雪まつりとイルミネーション



田んぼグラウンドゴルフ



コスモスの植栽



地域を照らす四季のイベント

【春】

コスモスやひまわりの植栽

遊休農地の景観活用として始まった取組み。道路から見える場所に植えることで、訪れる人に季節の彩りを届けている。

【夏】

幻想的な棚田ガーデンライト

6月から9月にかけて行われるライトアップは、最大700本の灯りで棚田を照らす代表的な取組みで、平成27年から10年以上続いている。

【秋】

収穫祭と田んぼグラウンドゴルフ

収穫祭では地域の野菜販売のほかに、稲刈り後の田んぼを活用し「グラウンドゴルフ」が開催される。若者のアイデアから生まれたユニークな企画で、遊び心あふれるイベントが世代間交流を促している。

【冬】

雪まつりと冬のイルミネーション

雪まつりでは雪の壁にキャンドルを設置し、心温まる空間を演出。さらに各家庭でもイルミネーションを行うことで、地域に帰ってきた人を温かく迎える風景が生まれる。

棚田で紡ぐ 地域の未来



ー農業体験を通じた 持続可能な地域づくりー

棚田で広がる支え合いの輪

雨上がりの少し霧がかった静かな山間に、楽しく話す声が響く。今年で5年目となる白鷹町『中山の棚田』での田植え体験には、40人以上の参加者が集まった。

主催者の土屋明美さんは、義父から受け継いだ棚田での農業体験を通じ、都市部の人々に中山地区の魅力を伝えていく。活動を始めたときは、「こんなところに人は来ない」と消極的な声が多かった。それでも、土屋さんは田んぼ一枚から農業体験を始めた。体験の参加者は年々増え、現在では家族ぐるみのつながりも生まれている。参加者が中山地区に興味を持ち、農産物を購入することにより、地域の枠を超えた支え合いの輪ができることを目指している。

中山の風景を未来へつなぐために

土屋さんが米作りを始めたきっかけは、「自分のトマト畑だけでは中山の風景を守れない」と感じたことだった。先人たちから受け継がれてきた棚田の景観を次世代に残すため、米作りへの参入を決意した。「自分の居場所を守ることが、結果として地域の未来を支えることになる」「いま頑張っている姿を見て、繋いでいきたいと思ってくれる若い世代が生まれることが成功かな」と土屋さんは笑う。中山地区では、高齢化に伴い耕作が難しい田んぼが増えている。土屋さんはこれから、引き受けられる農地を増やし、付加価値を付けた棚田米の販売も進めていく予定だ。

土屋 明美（つちや あけみ）さん プロフィール



白鷹町中山地区で大玉トマトの栽培と加工品の販売を手がけるほか、稲作を行っている。福島県国見町出身で結婚を機に中山地区に移住。元々はトマトが大の苦手だったが、近所の農家からもらったトマトの美味しさに感動しトマト農家になった。「やさい畑 i-make」園主、白鷹マルチワーク事業協同組合理事。

5月24日(日)
田植え体験

田植え枠を使って
苗を植える目印をつける

まっすぐ転がすのが難しい

ひんやりとした泥の感触に
ドキドキ

苗は『白鷹ほまれ』

公民館に集合し
みんなで
「いただきます！」

中山のお母さんたちが作った
たっぷりのわらび汁と豚汁

好きなだけごはんを盛っておにぎりを作る
塩を振って ぱく「最高、幸せ〜」

終了、きれいに植えることができた

泥んこになって
夢中で植える

初めての田植え
笑顔でパシャッ

『10月4日(日) 稲刈り体験』参加申込はこちら



秋の色づいた山々に囲まれ、たくさん体を動かしたあとはみんなで新米のおにぎりと芋煮を食べましょう！

Instagram メッセージまたは以下の連絡先にお申し込みください。

Instagram MAIL : imake1101@gmail.com TEL : 0238-87-2071

中山の棚田(白鷹町中山)

白鷹町中心街から北東へ登っていくと一気に視界が開け、眼下に美しい景観が広がる。白鷹山の麓、山間に広がるなだらかな傾斜地に中山地区がある。集落には茅葺屋根の家屋があり、美しい棚田の景観と相まって、懐かしい農村空間を感じられる。令和4年度に「つなぐ棚田遺産(農林水産省)」に認定された。



みんなで進める災害復旧

舟形町原田地区
(令和8年6月)

大雨災害への迅速な対応

令和6年7月25日から26日にかけて、山形県では大雨特別警報が発令され、記録的な大雨が発生し、未曾有の被害を受けた。

この大雨により河川の氾濫や土砂崩れが発生し、農地への土砂流入、水路の土砂詰まり、畦畔の崩壊など、営農に深刻な被害が数多く発生した。

特にこの時期は出穂期（しゅつすいき）と呼ばれ、水稻が最も水を必要とする時期にあたり、復旧の遅れによる用水不足は水稻の生育や収量に大きな影響を及ぼす危機的状況であった。しかしながら、これらの被害に対して農家個人で対応できる範囲には限界があった。

こうした状況の中、舟形町では国・県・町・土地改良区・地元農家が一体となり、被害状況の迅速な把握と用水確保のための応急対策に取り組んだことにより、営農の早期再開が実現した。



被災状況（土砂流入）↓（令和6年7月）



復旧後（土砂撤去）（令和7年6月）

大雨被災後の動き



被害状況の調査・把握
(国・県・町・土地改良区・地元)



仮設ポンプを用いた営農に
必要な用水の確保
(国・県・町)



堆積土砂を撤去して農地、
水路の復旧
(国・県・町・土地改良区)



復旧工事完了・営農再開



地元農家さんに聞いた

Q 災害時の被害状況は？

A 平成30年や令和2年の雨よりも大規模な被害があった。ところどころ冠水があり、農地に土砂が流れ込んだ。用水路が被災し、農地に水がかからなくなった。

Q 被災直後の営農は？

A 少ない水で営農するため、曜日毎に水をかける田んぼを変えたり(番水)、農家同士でポンプの貸し借りを行ったり地域一丸となつて協力しあっていた。

Q 今後の営農への思いは？

A まだ復旧完了していないところもあるが、町の対応が早く被災した次の年から営農を再開できて助かった。今後についても安心して営農できる。



かなうちえいいち
叶内栄一 さん

舟形町原田地区で大規模に営農を行っている。

(水稻のほか、タラの芽やニンニク等を栽培)

地域でつないだ水と農地



庄内町狩川

地域一体で用水確保

令和6年7月25日から26日にかけて、2度の特別警報が発令されるほどの記録的な豪雨が庄内地域を襲った。最も用水が必要となる出穂期^{しゅうすいき}を目前とした被災は、農家にとって営農の継続に強い不安が広がる状況であった。用水確保のため、市町の補助事業を活用した土砂撤去や水路復旧、各地で番水対応、排水の反復利用など地域一体となり用水確保に奔走した。これらの努力により、例年の約8割もの用水を確保することができた。一部地域からは、営農をあきらめる声も挙がっていたが、地域全体で支え合い、なんとか出穂期を乗り切ることができた。

きたたておおげき

北楯大堰の危機

庄内平野上流に位置する、北楯大堰は、延長約4.9 km、かんがい面積約2,850 haもの水田を潤す重要な用水路である。豪雨災害により土砂崩れが発生し、水路が断続的に閉塞して、農地へ水の供給が不可能となった。また、水路の閉塞により、堰に隣接する清川地区へ越水し、宅地が浸水するなどの二次災害も懸念された。

北楯大堰を管理している山形県と利用している最上川土地改良区は、被災翌日から状況を確認し、地元業者と早急な復旧へ向けて手配を進めた。

当時の対応を次のページにて紹介する。



令和6年豪雨で被災した 北楯大堰 ～復旧への歩み～



水路閉塞による越水状況



土砂崩れによる水路閉塞

災害発生（令和6年7月25日）
北楯大堰は、山際を通るため、豪雨による土砂崩れの被害が大きかった。中でも、水路が完全閉塞した箇所は、水の流れがせき止められ、行き場をなくした水が隣接する道路を越え、宅地にまで及んだ。



仮復旧完了



仮復旧工事中

仮復旧（令和6年9月）
完全閉塞のままでは、降雨時に流れてくる山地からの水が溜まり、再び清川地区に越水する恐れがあったため、閉塞箇所には管を埋め、一時的に通水を確認する仮の復旧を行った。



復旧完了



本復旧に向けた土砂撤去

復旧完了（令和7年5月）
令和7年春の営農に向けて、閉塞箇所の土砂撤去を行い、復旧が完了した。山形県と土地改良区の連携、地元業者の迅速な対応、地元の方々など多くの方の協力により、例年通りの通水が可能になった。

今回の豪雨災害を経て、被災前は当たり前前に感じていた用水の大切さを改めて実感しています。その気持ちを心にとめて、今後の営農も頑張っていきたいと思っています。

これまでも豪雨災害は経験してきましたが、令和6年はこれまでにない規模であり、言葉にならない気持ちでした。各地で用水不足が懸念される中、土地改良区や地域で協力し合い、なんとか営農にこぎつけることができました。



最上川土地改良区
理事 日下部 崇喜さん

先人が拓いた水の道
す わ ぜ き

諏訪堰

諏訪堰の概要と歴史

諏訪堰地区は、白鷹町から長井市にかけて広がる約360 haの水田地帯であり、諏訪堰幹線用水路の延長は約9500mである。

諏訪堰が開削される以前の浅立村と畔藤村は、荒廃や水不足が原因で耕作できる土地が限られており、貧しく小さな村だった。そこで、当時の両村の代表であった沼澤伊勢と新野和泉が村の発展を願い、諏訪堰の開削に着手した。開削には膨大な費用がかかるため失敗すれば処罰されるという厳しい条件の下、慶長10年に願書が提出され、その後無事に完工した。堰の完成により荒地の開発は急速に進み、それまで貧しかった土地は豊かな農地に生まれ変わり、現在の諏訪堰地区へと発展していく礎となった。

現在、諏訪堰は地域の農業基盤としてだけでなく、地域の小学生が施設めぐりを通して水の大切さを学ぶ場としても活用されている。土地改良区は豊かな自然や、先人の知恵が詰まった諏訪堰の役割や価値を子どもたちが理解し、未来へと受け継いでいくことを願っている。

環境を守り、次世代へ

白鷹町土地改良区では、田んぼに水が届くまでの流れとともに、施設や機械がない時代の水の運搬方法などの歴史を学ぶことができる施設めぐりを開催している。担当の小関さんは「日々当たり前に食べているお米の背景には豊かな水とそれを管理する多くの人が関わっていることを伝えたい」と語る。参加した子供たちからは「水の管理は本当に大変なのだと学んだ」「昔の人の努力と苦勞が知れてよかった」という感想が寄せられている。



諏訪堰施設めぐりの様子

すわぜき 諏訪堰

周辺施設めぐり

1 諏訪堰頭首工

昭和 37 年に完成。
この頭首工から最上川の水を取り入れ諏訪堰地区全体に配水している。
老朽化により平成 24 年から改修工事が始まり、平成 26 年 3 月に現在の形となった。



2 諏訪神社



神社本殿・拝殿は白鷹町の指定文化財となっている。
諏訪堰を開削した沼澤伊勢の記念碑を見ることができる。

3 広野観音堂

置賜三十三観音のうちのひとつとなっており、諏訪堰を開削した新野和泉の墓と記念碑を見ることができる。



4 諏訪堰揚水機場

幹線用水路の途中までは、高低差を利用した「自然の力」で水が流れている。しかし、水路より山側に位置する一部地域へは自然に水が流れていかないため、揚水機場から「機械の力」を使って上流へと水をくみ上げる必要がある。



5 畔藤排水機場

畔藤地区の田んぼは、大雨が降ると最上川から逆流した水が流れて稲が水没してしまうという問題があった。そこで、平成 16 年のほ場整備事業に合わせて排水機場が建設され、水没が起こっても短時間で解消できるようになった。





山形ですくすく育つ ダチョウ



ダチョウみたいに
走りだしたくなっちゃう!?



ダチョウ 100% フライシュケーゼ

フライシュケーゼとはひき肉とスパイスを型に入れ蒸し焼きにした食品である。お好きなパンと野菜、チーズなどを一緒にサンドにしてはいかが？スパイスが効いているので、そのままでおいしく食べられる。

雪国やまがたのダチョウ

朝日町にはダチョウ肉の加工・販売を手がける「朝日町健康工房ロイフェン」がある。ロイフェンとはドイツ語で燻製という意味である。

ダチョウは、平成10年ロイフェンの関連会社である建設会社によって、南アフリカから輸入された。当時は異業種への事業拡大への機運が高まっており、社長には「誰もしていないことをしたい」という思いがあった。その思いと、日本国内では広まりつつあったものの、県内ではまだ珍しかったダチョウの飼育事業が合致し、導入のきっかけとなった。

現在、ダチョウは町内2か所の牧場で飼育されている。また、旧左沢高校朝日分校のグラウンド跡地に整備された「オーストリッチ展示圃」は一般公開されており、実際にダチョウを見学することができる。



朝日町健康工房ロイフェン
代表取締役 熊谷良作さん

オーストリッチ展示圃のダチョウ

身長2m、体重100kg。オーストリッチとはダチョウの英語名。堂々とした立ち振る舞い。雪国でも元気いっぱい。町の特産品であるリングもえさにしている。長いまつ毛のクリっとした目でこちらを見つめてくる。

栄養豊富なダチョウ肉

ダチョウ肉は高たんぱくで低脂肪、鉄分も豊富に含んでいる。肉は赤身で柔らかく、旨味がある。脂肪分が少ない割にはジューシーで、クセや臭みはほぼない。

ダチョウフランク

外はパリッと、
中はしっとりジューシー。
道の駅あさひまちにて販売中である。
冷凍品もあるので持ち帰りも可能だ。



朝日町健康工房ロイフェン各商品は、公式ネットストアのほか、「道の駅あさひまち」「道の駅おおえ」で取り扱っている。

アクセス



朝日町健康工房 ロイフェン

山形県西村山郡朝日町大字宮宿 600-13

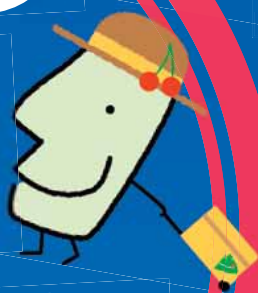
オーストリッチ展示圃

山形県西村山郡朝日町大字宮宿 1463-44



ホームページはこちら

やまがたの 棚田 スタンプラリー 2026



スタンプラリーに参加して
棚田地域の素敵な賞品を当てよう！

7/1
(水)

11/30
(月)

5 棚田以上を巡って、当たる

おこめ賞 (20名様)

「やまがたの棚田米」5 kg



9 棚田以上を巡って、当たる

棚田げんき賞 (10名様)

棚田地域の特産品 ¥5,000 相当の品

棚田完全制覇！もれなくもらえる

コンプリート賞

プレゼント内容は期間中に公開予定！

棚田の写真を投稿して当たる

フォトジェニック賞 (5名様)

棚田地域の特産品等 ¥3,000 相当の品

※応募いただいた写真は、今後の棚田振興の為に活用させていただきますので、写真の使用にご了解いただける方に限ります



スタンプラリーの参加方法

スマホで棚田スタンプラリー
特設サイトを
チェック！
(県 HP より)



棚田へGO！



現地でサイトを開き
スタンプ取得



Web 閲覧履歴
は削除しない
でね！

スタンプがたまったら
特典に応募



当たると
いいな♪

フォトジェニック賞

#やまがたの棚田スタンプ
ラリー2026 で Instagram
に投稿しよう



●棚田を巡る場合は、農業者や地域住民の通行等の支障とならないようご配慮願います。

やまがたの棚田スタンプラリー



やまがたの棚田に関する HP にいますぐアクセス！

山形県農林水産部農村計画課 中山間・棚田振興担当 TEL 023-630-2495 FAX 023-630-2509

読者プレゼント

本誌 16～17 ページで紹介したダチョウ肉を使用した加工品の詰め合わせを 3 名様にプレゼント。

ご応募は、下のアンケート回答フォームから回答いただくか、応募はがきに記入してお送りください（官製はがき可）。本ページは山形県ホームページからも印刷できます。

アンケートの回答フォームはこちら



※当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

※ご応募によって得られたアンケートの情報は、個人情報を含まない形で誌面への公表等
に使用させていただく場合があります。

※プレゼントの応募締切は、2026 年 9 月 30 日です。

山形県ホームページから norari のバックナンバーをご覧ください。
右記コードからアクセスしてください。



走り出したくなるおいしさ？
ダチョウ肉の加工品詰め合わせ！

『ダチョウ肉セット』



3 名様

※写真はイメージです。

プレゼントと写真のデザインが異なる
場合がございますのでご了承ください。

地域活動情報をお寄せください。

85円切手を
お貼り下さい

〒990-8570

山形市松波2-8-1

山形県 農林水産部 農村計画課

norari 事務局 行

お名前

ご住所 〒

お電話番号

読者プレゼント希望欄

☐

プレゼント希望の場合は、「**レ**」を付けてください。
応募締切は、2026年9月30日（消印有効）です。

アンケートにご協力ください

Q 1 本誌の内容はいかがですか？

☐ おもしろい ☐ 普通 ☐ つまらない

Q 2 皆さんの活動や産品で本誌に掲載してみたいものがありましたらご記入ください。

Q 3 本誌に関するご意見をご記入ください。

のらり
親父の
つぶやき



やれやれ

『古希』

いつの間にか 70 歳。古希を迎えた。

70 歳といふかなりの高齢者と思っていたが、周りを見てみると、まだ仕事を続けている人も多いし、朝野球でプレーしたり、日曜大工だったり、ギターを弾いたりまだまだ元気で暮らしている。

私も、ゴルフもするし、スマホで動画も見ると、カルビだって 3 枚くらい食べられる。

後輩からも、「70 歳なんてまだまだ若いですよ。老け込む歳じゃないです。」などと言われる。

先日テレビの番組で『井ぶり物』に関する放送があった。

その中で、年代別の好きな井ぶりのアンケート結果が発表されていた。

年代別好きな『井ぶり』(男性)

10～20 代 海鮮丼

30～40 代 牛丼

50～60 代 かつ丼

結果を見て驚いた。

70 歳、アンケートの対象から外されている。

秋号は 10 月下旬発行予定！

発行 norari 編集委員会

〒990-8570 山形市松波 2-8-1

山形県 農林水産部 農村計画課

「norari 事務局」Tel 023-630-3077

協力 山形県農村振興技術連盟

山形県土地改良事業団体連合会

地区の未来を考える めいじ 明治地区(山形市)



明治地区は山形市の北西部に位置し、山形盆地のほぼ中央を流れる須川に、白川(馬見ヶ崎川)と立谷川が合流する場所です。山形市山寺から西川町間沢を結ぶ「さくらんぼサイクリングロード」が地区内を通り、西に「月山」、「朝日連峰」、「葉山」、東に「蔵王」を一望しながらサイクリングを楽しむことができます。

令和7年2月に開催した地域づくり講演会をきっかけに立ち上げた「明治地区の未来を考える会」が発起人となり、地域住民が一堂に会して持続可能な地域づくりについて話し合う、ワークショップに取り組んでいます。1回目のワークショップでは、数班に分かれて現場を歩き、気づいたことを点検マップにまとめました。2回目のワークショップでは、明るく元気で住みやすい明治地区の実現に向け、前向きな提案を出し合います。この取組みでまとめた成果は、今後の明治地区の地域づくりに活かしていく予定です。

元気な農村(むら)づくり総合支援事業は、地域が主体となって取り組む地域づくりを応援するものです。地域で実施する話合いや地域での活動を進めたいが、誰に相談したらよいかわからない。悩める市町村の担当者や地域の皆さん、そんな時は下記の窓口にお気軽に相談してください。



お問い合わせ先 村山総合支庁 農村計画課 TEL 023-621-8389 最上総合支庁 農村計画課 TEL 0233-29-1339
置賜総合支庁 農村計画課 TEL 0238-26-6056 庄内総合支庁 農村計画課 TEL 0235-66-5549
県庁農村計画課 農村づくり担当 TEL 023-630-2948